

邑南町第3次総合振興計画（素案）パブリックコメントに対する邑南町の考え方

番号	該当箇所	意見の概要	意見に対する考え方・対応
1	P7	<p>「地域とのつながりがあることの安心感」や「新たな挑戦が生まれるための安全な暮らしの基盤」とは、具体的にどのような状態を指すのか。また行政としてどのような施策・役割分担によって実現することを想定しているのか。</p>	<p>ヒアリングや住民会議から、邑南町での暮らしや事業を営む上での強みとして「つながり」が示されました。安心感、挑戦が生まれるための安全な暮らしの基盤とは、こうした「つながり」が町民の間で実感できる状態を指し、日常の暮らしが安心できることで一人ひとりが新しいことに挑戦できる基盤となると考えています。</p> <p>行政としては、地域運営組織の形成等による新たな地域を支え運営する仕組みやおおなん学など重点的戦略プロジェクトをはじめ、福祉・医療・防災など幅広く安心できる邑南町となる施策を推進してまいります。</p>
2	P43	<p>リモートセンシング等を活用した地形データの収集等を「活用につなげる」と記載されていますが、具体的にどのような活用を想定しているのでしょうか。</p> <p>これらの取組は、行政事務等の高度化、文化財保全など多様な意義を持つ一方で、調査・整備には相応の費用がかかると考えられます。こうした取組を、調査や記録にとどめず、観光、教育、研究、産業振興等へと発展させる構想があるのか。</p> <p>また、事業費をどのような形で町全体の価値向上や経済的波及につなげていくのかについて、ご説明いただきたいです。</p> <p>あわせて、本施策において「投資」という考え方を採用している</p>	<p>地籍調査等における調査の高度化としてリモートセンシング等の活用を検討しています。その際、基礎となる地形データ等は、既存の整備済みデータを有効活用する方針です。更に、この既存データを活用した取組みの延長として、鉄穴流し等の痕跡をデータ化することが可能ではないかと考えています。こうしたデータは、今後の教育や観光、研究等においても活用できるものになると期待します。</p> <p>製鉄文化で栄えた歴史文化にデータで根拠を持たせることができると考えます。他分野で活用できるデータは町民に広く公開・共有できれば、誰もが根拠を持って説明や案内、営業できるように</p>

		<p>のか、それとも公共財としての整備を主眼としているのか。位置づけを明確にすることで、町民の理解や納得感が高まるのではないかと考えます。</p>	<p>活用いただけるのではないかと考えていますが、まだこれからの段階です。</p> <p>上記のように、将来的に様々な面で活用につながるための基礎データを収集する「投資」的な面もありますが、10年後を想定する中で活用が必要な技術であると考えています。</p>
3	P31	<p>「起業・第二創業等の町内事業者の挑戦を支援」の項目において、「おおなん相談所」を中心とした事業者支援の充実が示されていますが、これまでの相談所の取組によって、どのような成果や課題があったのか。</p> <p>その検証結果を踏まえ、今後どのような点をバージョンアップしていくのが計画上では読み取りにくいと感じました。</p> <p>次の10年に向けて、従来の支援内容とどの点が異なり、どのような価値を追加しようとしているのかを具体的に示していただきたいです。</p> <p>また、「地域内での経済循環の拡大」について、町内での消費拡大につながる取組を支援するとありますが、どのような仕組みや施策によって実現を目指すのかが不明確に感じられます。さらに、「地域内の経済循環の効果を分かりやすく発信していく」とありますが、どの指標を用い、誰が、どのような方法で「分かりやすさ」を検証・評価するのかについても、考え方を示していただけると理解が深まると考えます。</p> <p>加えて、起業・創業しやすい環境整備として、空き家・空き店舗</p>	<p>しごとづくりセンター機能を邑南町商工会に移行したうえで、目標としていた新規法人開設数48法人を令和6年度に55法人と目標達成しました。</p> <p>他方、引き続き取り組むべき課題としては、起業したあとの継続支援や事業拡大等を支援することでの雇用創出、就業等をきっかけとする移住促進にあると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起業、第二創業支援 ・ 事業継続支援 <p>を引き続き商工会・「おおなん相談所」等と連携を図りながら推進してまいります。また、移住という観点から複数の課での連携をより強化し、取り組みたいと考えます。</p> <p>地域内での経済循環の拡大は、おおなんきらり等を通じた電力の町内消費、今冬の燃料券、さくらカード等へのポイント付与支援などを通じた経済循環などがありますが、今後も社会情勢は変化が激しいものと考え、都度適切な事業を展開してまいります。</p>

		<p>の活用、貸しオフィスやコワーキングスペースの整備・利用促進が挙げられていますが、これまで同様の取組を進めてきた中で、利用実績が限定的であったとすれば、その要因分析が重要ではないでしょうか。今後、単なる施設整備にとどまらず、どのような利用者像を想定し、どのような運営手法や支援と組み合わせることで利用促進を図ろうとしているのかについて、具体的な方向性を示していただきたいです。</p> <p>本計画が町内事業者にとって実感を伴う支援となるためにも、過去の取組の検証と、それを踏まえた改善点や新たな工夫を明確にすることが重要であると考えます。</p>	<p>起業・創業支援のための貸しオフィス等が限定的であったとすれば、起業のスタイル（営業形態等）にミスマッチがあったと考えられます（例として、飲食店や美容室での起業が多かったですが、飲食店をコワーキングスペースでスタートさせることは難しいと考えます）。</p> <p>引き続き飲食店等の起業は一定数想定されるため、開業直後の家賃補助や設備投資への補助等が想定され、貸しオフィス等に限定しない起業創業支援が必要と考えます。</p>
4	P32	<p>道の駅や農産物直売所を観光の起点にするためには、農産物栽培の活性化を図ることが重要ではないかと考えます。せっか遠方から来られたのに、野菜がわずかしかかないようでは、来場者が減っていくと思います。そのためにも、町内各地域からの流通ルートの整備が必要だと思えます。</p>	<p>道の駅指定管理者をはじめとして、各テナント事業者とは1～2ヶ月に1回程度の頻度で運営情報の共有会議を持ち、野菜の集荷・出荷状況、お客様の様子などを共有しています。</p> <p>その中で、午後からも充実した品揃えについての課題認識は共有しており、指定管理者の方でも集荷等を行うなどの工夫をしてもらっているところです。</p> <p>町としても引き続き生産・出荷を支援する取り組みを検討してまいります。</p>
5	P39	<p>山・川の調査等に取り組むだけでなく、動植物に親しむ機会を増やすことで、邑南町の自然の豊かさや素晴らしさが体感できると思えます。そのことで、邑南町の自然への愛着心が育まれ、守り続けていきたいという住民の意識が高まると思えます。</p>	<p>山や川の生き物調査を通じて邑南町の自然環境、生態系等に関心を持つ機会としていきたいと考えています。</p>

6	<p>幅広い分野に網羅されている素案ではありますが、芸術、音楽、美術の観点が完全に抜け落ちております。それは役場組織内に芸術、音楽、美術の分野に携わる方々が居られないからだと思いません。芸術、音楽、美術というものは人間の心を育みます。人と人、場所と場所、心と心を結びつけることができる唯一のモノです。もしも邑南町がこの芸術、音楽、美術の分野を大切に扱い続けていく意志、芸術、音楽、美術を用いて町民が豊かに生きていける環境づくりに力を入れていくと発信をしつづけられるだけで、日本中にあるその他の数千の自治体とは全く異なる精神性を持って行政をおこなっているのだなという証明ができると思いません。この分野は多くの愛好家方々によって支えられているのですが、展覧会、演奏会、美術展が町内でほとんど無く、芸術、音楽、美術に身近に触れられる環境下がないのが現実です。中山間地域であっても上質な芸術、音楽、美術にアクセスできる環境を作り続けていく意志を世界に発信していくことがあると邑南町にもっと多様な人材がやってきて面白い町になっていくのだと私は考えております。</p> <p>町内には優秀な芸術家が私が知るだけでも数名おります。彼らを中心にアートカウンシルを組織化していくとより良い方向に導いていくことができると思えます。</p> <p>アートカウンシルとは（専門知識を有する人材が文化芸術に携わる人たちを支援することで、文化芸術の振興を図り、文化芸術を活用して、子育て・教育・福祉・観光・都市の活性化といった様々な分野の社会的課題の解決をめざす組織）</p> <p>どうかこの観点を取り入れていただきたいと考えます。よろしくお願いたします。</p>	<p>町内において、中学校や高校の吹奏楽部があり、定期演奏会などが開催されています。また、近年は町内愛好家の方による音楽イベントが開催されたり、公民館まつりの中などで披露されたりしているところです。</p> <p>他方、ご指摘のように芸術・音楽・美術を専門的に、常設的に推進している部署や団体は現在のところはありません。</p> <p>現在のところ、町として設置する計画はありませんが、引き続き町民による文化芸術活動の支援には積極的に取り組んでまいりたいと考えます。</p>
---	---	---

7	P25	<p>これからの社会で残る部門と言われているのがマーケティングとコーチングで、+決算書が読めるところまでを専門的に教える専門校にシフトチェンジ、全国から生徒を呼び、町内の魅力をマーケティングしたり、社会での人間関係の構築や計画をコーチングで学び、大企業であろうと小規模であろうと即戦力になる人材に育てる仕組みの高校が理想だな。それか、物理を重点に置いた高校。</p>	<p>小中での接続を意識したふるさと教育の手法である「おおなん学」や学校教育では引き続き指導要領に基づく教育によって思考する力の蓄積、基盤づくりは重要であると考えます。</p> <p>一方で、基礎的な学力を基盤とした「応用力」はマーケティングやコーチング等につながるものであると考えます。こうした応用力は、社会教育や大人になってからの学び直し（リスキリング）などで機会確保していくことが大切です。邑南町では、学びたい人が学べる環境づくりに取り組み、誰もが次の時代に挑戦できる基盤づくりにつなげたいと考えます。</p>
8		<p>素案に同意している前提で、今後人口縮小が加速していく上で本当に可能なんだろうかと疑問もあります。全分野にそれぞれ裾野を広げてらっしゃる、町民の声が土台なんだと思いますし町民の声を反映されるのもわかるんですが、その上でどうしたいが感じ取れないんです。町民の声は町民の声として置いて、町としての方向性は必要じゃないかと思います。抽象的な意見で申し訳ないですが、なんというか批判覚悟で信じる道を進むというのが感じとれない、総合振に合いそうな事業を今後はめてくるだけなんだろうな、職員の皆さんがおもしろいと情熱をもって励むことができるんだろうか、そんな思いで読まさせていただきました。素案策定にご尽力され裾野まで詳細に組まれていることは感じました。ただ策定している最中に、身震いする熱中する瞬間がみなさんにあったんだろうか、協働の精神が生まれたんだろうか、そう感じました。</p>	<p>人口が減少しても、充実した地域社会、暮らしやすい地域社会の実現が必要であると考えます。そのためには、過去の右肩上がりの成長が続いてきた延長上ではなく、まったく違う視点が必要であると考え、審議会や住民会議等においても強い熱意で議論をいただいたと考えています。</p>

9		<p>まちづくりを進める上で人口減少は大きな課題となる中で、2035年8,000人を維持を目標に掲げてあります。課題に対し目標を掲げて正面から取り組み、対策を講じる為にもう一本「町・地域を担う人材確保」の柱を設け、定住、移住、IUターン対策を最優先で行う事が必要と考えます。地域に一定数の担い手が、生活と子育てができ、繋がりができる環境を整えることが、極めて重要と思われまます。</p> <p>現在の対策に加え、例えば、若者・子育て世帯の家賃の助成や移住支援制度、雇用の確保と条件整備、町の魅力発信等、他の行政も行っているなか効果がでるかが疑問視されますが、それでも対策を講じて町や地域が予測以上に小さくなって行くことが無いようにこれからの10年間で本当に大切であると感じています。</p>	<p>人口目標を設定し、人口減少への課題認識とそれに基づく取り組みは重要です。</p> <p>総合振興計画を通じて住み心地の良いまちを実現することが、IUターンにつながり、定着しやすい町になると考えています。これからの邑南町にとって大切であるとする「地域とのつながり」と「挑戦」の価値観が醸成、共有されるような取り組み方針を示しました。</p> <p>ご指摘の「人材確保」という考え方は、4つの柱の中に通底しており、価値観が多様化する中で様々な面からアプローチできるように構成しています。</p>
10	P4	<p>「本計画の期間は、令和8年度～令和17年度までの10年間」とあります。現時期での素案であれば、令和8年度へ反映させることが無理ではないですか？</p>	<p>令和6～7年度の間、庁内各課と本計画の内容については共有しています。令和8年度の早い時期に一部の施策については、素案の方針に沿った事業が行えるように検討を進めています。</p> <p>素案の方針については、10年後を見据え、順次施策を進めてまいります。</p>
11	P15	<p>町内の児童・生徒のことが書かれているんだと思いますが、現状として「失敗がはずかしい」等3点が書かれています。児童・生徒が本当にこのような認識をしているのでしょうか？客観的データはありますか？</p>	<p>すべての児童・生徒に当てはまるものではありませんが、関係機関等へのヒアリングなどを通じて把握した現状をわかりやすく端的に表現したものとなっています。ご意見を踏まえ修正を検討します。</p>
12	P15	<p>①「子どものロールモデル・マッチング」とありますが、多くの町民は意味がわからないと思います。</p>	<p>①「ロールモデル」とは、子どもたちにとっての「お手本」となる大人の存在を指します。子どもたちが目指したくなるお手本の</p>

		②どのような方をロールモデルとして設定されるのですか？事業実施は可能ですか？	<p>ような大人との出会いと交流の促進を図ることとしています。</p> <p>②町内には多様な方が居住・勤務されています。また、個人・法人問わず事業に挑戦している方々がおられます。こうした大人、事業者の皆さんの取り組みを情報提供や職場体験等を通じて充実していく計画です。</p>
I 3	PI6	「農業は儲からないというイメージ」とありますが、実態を表した表現でしょうか？	<p>実態として儲かる、儲からないということより、そのようなイメージが一般化しているということを指しています。ご指摘を踏まえ修正を検討します。</p>
I 4	PI6	「省力・効率化」と「担い手の確保」「圃場整備」が同列になっていますが、一丁目一番地が「圃場整備」でそのことによって、効率化が図られ、担い手確保につながると思います。そのことが明示されたほうが良いと考えます。つまり上位・下位の関係にあると思うのですが。	<p>圃場整備と省力・効率化、担い手確保、高収益作物推進は並行して推進していくものと考えます。圃場整備を推進する前提として、継続的に農業に従事する担い手確保が必要となり、そのための省力・効率化なども不可分であると考えています。</p> <p>しかしながら、圃場整備はこの一連の流れでは最重要課題となるという認識はご指摘のとおりと考えます。</p>
I 5	PI8	この項目のみ、財源対策が書かれていますが、他の項目にはないので違和感を感じます。	<p>ふるさと納税に関する記述のことだと思いますが、産業に関するふるさと納税はすでに提供されています。他方、町として戦略的重点プロジェクトに位置づけている地域運営組織は、組織を作れば良いというものではなく、持続可能な運営にしていくことが大切だと考えます。そのためには、人材配置と合わせてふるさと納税等の地域運営組織にとっての財源づくりの環境整備が必要と考え記載しています。</p>

16	P26	<p>「公民館を生かした（活かした？）社会教育の充実」とあります。</p> <p>現在、各公民館には主事及び事務員が配置されていますが、これをベースに社会教育をさらに充実すると考えて良いですか？</p>	<p>公民館等を生かした社会教育の充実は、建物としての公民館を活用する面と社会教育・生涯学習プログラムのソフト充実面の2面あります。各地域での公民館等の役割は今後も重要なものであると考えています。今後のあり方を検討しながら、地域運営組織と連携し、社会教育の充実に取り組みます。</p>
17	<p>学校・家庭・地域が一体となった「おおなん学」</p>	<p>「おおなん学」は新しいことに挑戦する子どもを育てることだけか？「現状」の子どもの姿がそのことに限定されているように思う。私は、「地域や邑南町のよさや課題を見つめ、そのことに取り組もうとする意欲を育てる」ことが目的に近づく視点につながると思う。</p>	<p>おおなん学は邑南町で生まれ育つすべての子どもたちを対象に取り組むものです。</p> <p>これからの時代を担う子どもたちは、今よりも一層、自分たちで考え、実行する意思と力が求められると考え、「自分なりの挑戦」ができる人材を大きな目標としました。なお、おおなん学邑南町をフィールドとして学びを深めていく中で地域愛の醸成にもつなげていくこととしています。</p>
18		<p>『挑戦に踏み出せる安心領域』という表現は具体性に欠ける</p>	<p>表現についてはわかりやすい表現に修正します。</p> <p>なお、安心領域とは、「いつもの仲間」「いつものお店」といった安心でき、ストレスがかからない領域（いつもと変わらないことへの安心感）を指します。</p> <p>挑戦は変化を後押しするもので、不安やストレスと向き合う場面に遭遇することもあります。挑戦＝不安に立ち向かう精神的基盤として、自分が安心して過ごせる環境を持てるように、環境づくりに取り組みます。</p>
19	<p>多様な力を結集した</p>	<p>『町と地域が真の協働関係』とは？ 町が考える理想像が明確でない</p>	<p>「町に言われたからやる」ではなく、地域として必要な取り組みを地域で考え、実行すること。また、地域と町が協働して取り組み、地域単独では難しいものを行政が支援・補完する関係を、こ</p>

	地域コミュニティの育成		れからの協働関係として担保していくことが理想像と考えます。
20	テクノロジーを活用した持続可能な農林水産業	『地域での農地維持のあり方検討と圃場等の整備』については、補助率を100%にして圃場整備を実施しやすいようにすることで、圃場整備による米作り農家の課題が軽減できる	ご意見ありがとうございました
21	山と川、生物多様性を保全し、安定した水源を確保	『水源地保全等』の取り組みは必要であると考えるので賛成であるが、放置山林対策への具体的な取り組みが知りたい。	本計画は総合振興計画であり、今後の邑南町にとって必要となる方向性等を示すものです。 具体的な取り組みは個別の計画や事業によって推進していくこととなりますが、放置山林については、まずは地籍調査を推進し境界確定したうえで管理・活用につながっていくものと考えます。
22	PI0	「くらし」の説明は理解しにくいのではないか。10年後のくらしがイメージできる言葉でお願いしたい	ご指摘ありがとうございました。表現を修正したいと思います。
23	PI2	「おおなん学」のイメージがしにくい 仕事を伸ばすための「ブランド化」は必要かもしれないが生産者の意見も大切に	P.15、22で「おおなん学」については詳述しています。 「おおなんブランド」を構築することは、製品の販売促進につながるとともに、観光等にも好影響をもたらす基盤となります。 また挑戦を応援する町というブランドが浸透することで、起業等

			による経済活性化や移住促進、企業誘致等にもつながる取り組みであると考えます。生産者の意見を大切にというご指摘ありがとうございました。
24	P16	大型機械を導入しなくても「農業をやりたい」と思う人々への支援が必要。小規模・家族農業者への対応の記載。	町内の農業は小規模農家・家族経営農業に支えられている部分が多くあります。テクノロジーを活用した省力化・効率化は小規模な事業者にも必要な点であると考えます。 大型化を志向しない農業者に対する支援も引き続き取り組んでまいります。
25	P21	スポーツを通じた健康増進は高齢者や障がいがある人も視野に入れた施策にするべき	スポーツを通じた健康増進は、「誰もが」と記載しているように、一部の人に特定・限定したものではありません。 島根かみあり国スポ・全スポ2030の開催なども控える中、町民誰もがスポーツを通じて健康増進に取り組んでいただけるように、推進してまいります。
26	P32	邑南の里2Fスペースの活用と誘導を	道の駅邑南の里2階スペースは、展示スペースとしての活用や学校等における学びのスペースとして活用いただいています。また繁忙期などは、道の駅を利用される方の休憩スペース、食事スペースとしても活用いただいています。引き続き、2階スペースの活用、案内をしてまいります。
27	P51	自治体間の広域連携の推進 第2次の計画では、原発事故時松江住民の受け入れのことが示されていたがその件についてはどうなったのか	原発事故に限らず、様々な自然災害等による被災時には、広域連携による支え合いが大切と考えています。

28	P44	空き家の除却→除去ではないか（2箇所）わかり易い言葉が良いのでは	空き家に関連する計画では国等においても「除却」という用語を用いており、それに準じています。
29	P22	「町の自然・文化の研究と発信」の中に淀原湿地も加えていただき、保全整備への支援をお願いしたい。	総合振興計画においては、個別具体の対象等をすべて記載することはしていませんが、淀原湿地や水明湿地をはじめ町内には他にも貴重な環境があり、これらの保全についても検討・対策を進めてまいります。
30	P24	小学校通学路は、小学校、PTA、警察などにより定期的に点検されているが、教育委員会にも参加していただき、危険箇所の情報を共有し、いち早い改善へつなげてほしい。	道路管理者、教育委員会、公安委員会が参加する「交通安全プログラム」を活用して引き続き点検と改善に努めます。
31	P44	人家に近い危険空き家の除却は待たないでほしい。人家から遠い空き家に関しても取り組みに加えてもらいたい	人的・財政的な条件もあるため、まずは人家に近接した危険空き家の除却等を推進する方針（邑南町空家等対策計画）となっています。
32		町が主催、あるいは、関係する、講演会、研修会に際してのおおなんさくらカードポイント付与についてもご一考下さい	様々な施策や取り組みへの誘導の方策提案として承ります。
33		「我々にもできること」への手助けとして、(主に暮らしについて) 補助金、助成金の情報があれば、こまめに広報等に掲載して、住民に周知してほしい。	補助金・助成金等の情報は広報等を通じて発信しているところではありますが、目にとまりやすいよう工夫をしております。また、町公式 LINE 等の活用についても検討しております。
34	P5	暮らしの項に記されている「見守り、移動販売等の共助の仕組みがある」については、つながりの項に該当するのではないだろうか	共助の仕組みに限らず、取り組みの要素としては不可分ではありますが、後段の取り組み内容との整合性を鑑み、「つながり」の項に修正します。

35	P6	ここに記されてある「地域とのつながり」について、以降のページでは、「地域とつながり」とあります。整合が適切と思います。	当該ページの「地域とのつながり」は、邑南町の強みとして浮かび上がった要素を指しています。 こうした強みを活かし、伸ばしていくために、今後あらためて「地域と“つながる”」ことをねらいとした取り組みなどを示しています。
36	P12	題目に記されている「総合戦略」について、「邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(頁04に表示)であれば、正式名での表示、あるいは4ページの「邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「総合戦略」)」の表示が適切と思います。	頁04とともに「邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略2026」に修正します
37	P13	「暮らしを守る」「つながりを深める」の体系図について、12ページの「ひとを育てる」「しごとを伸ばす」の体系図と同じ表示が分かりやすいかと思います。	12ページと13ページを1つの表として考えてデザインしていますが、ご指摘の点を踏まえ4つの柱は同じ表示に変更します。
38	P17	暮らしを守るの取り組み内容について、「上下水道施設の管理・整備」、「水源地保全等に関する広報活動」とありますが、09暮らしを守る(頁39)では、「上下水道施設の管理・整備の推進」、「水源地保全等に関する広報」とあります。それぞれの語句の整合が適切と思います。	できるだけ読んでいただきやすいように、指している取り組みが同義の点は簡略化して表現をしています。
39	P18	つながりを深めるの取組内容について、「地域マネージャーの配置・育成の支援」、「住民会議等の交流の場づくりを進める」とありますが、10つながりを深める(頁46)では、「地域マネージャーの配置と育成の支援」、「住民会議等の交流の場づくりを推進」とあります。それぞれの語句の整合が適切と思います。	同上

40	P28	しごとを伸ばすの取組内容について、「高収益作物の導入」と「担い手の確保・育成」の記載内容が同じとなっています。06しごとを伸ばす(頁16)では、「高収益作物等の導入」とあります。語句の整合が適切だと思います。	同上
41	P46	つながりを深めるの多様な力を結集した地域コミュニティの育成についての説明文について、「地域コミュニティ再生プロジェクト」「地区別戦略事業」とありますが、「地域コミュニティ再生事業」「地区別戦略実現・発展事業」での表示が適切かと思いません。	改めて確認しました。 「地域コミュニティ再生事業」「地区別戦略実現事業・発展事業」に修正いたします。
42	P4	計画の構成の説明での「まちづくりの基本理念」や「基本理念」とありますが、「まちづくり基本理念」「基本理念」とは何を示すことが必要かと思えます。 「まちづくり基本理念」とは、邑南町まちづくり基本条例第2章まちづくり基本理念(第4条、第5条)を示すのでしょうか。 「基本理念」とは、地域とつながり、挑戦を育む町を示すのでしょうか。邑南町民憲章は、この計画には示されないのでしょうか。	まちづくりの基本理念はP7で示している理念を指します。 P4の一連の文章の「基本理念のもとに」で指す基本理念も同様で、「地域とつながり、挑戦を育む町」という目指す姿に近づくための取り組み、方針、施策の方向性を示すものが本総合振興計画となります。 ご指摘の本文中の「基本理念」が何を示すのか、わかりやすい記述を検討します。 まちづくり基本条例、邑南町民憲章等の邑南町の基本となる憲章や条例、資料等は文章量が多くなることから別冊を作成することとしています。ご指摘の点は別冊にて記載いたします。
43	P4	計画の構成では、基本構想と基本計画、実施計画の構成の説明があります。I計画の位置づけでは、「邑南町第3次総合振興計画は、(中略)邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略を包含した計画とします」とあることから、一体的な計画を示す図があれば	ご指摘の点は別冊にて記載いたします。

		わかりやすいと思います。例: 邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020 の 3 頁の図	
4 4		これまでのまちづくりの振り返りは示されるのでしょうか。この計画を策定される上には、これまでのまちづくりの振り返りと、今後のまちづくりの課題があって、本編の 10 年を描く計画があると思います。序論となるものは、示されるのでしょうか。	本計画策定にあたって、役場庁内へのヒアリング、関係団体等へのヒアリングなどを行いました。また住民会議、審議会等で提出いただいた指摘等を踏まえて進めてきた計画です。 本計画は作った後に、多くの方に読んでいただき、実行段階でも多くの方に関わっていただけるようにと考え、本編の表記は意図的に簡素化しています。 ご指摘の点（振り返りと課題設定、方針についての議論の過程など）の詳細については別冊にて整理してまいります。
4 5	P15～	「おおなん学」の推進について このことは邑南地域の全域的な視点から「地域協働スクール」の理念を進化させることが大切であり、先ずその土壌を創るために「小・中・高」で一層の連携したシステムを構築することが肝要。しかも早期に発展させることが必要であり、それを軸に「学校・家庭・地域」が一つになって取り組んでいくことだと考えます。	ご指摘の点について受け止め、今後の事業展開に生かしてまいります。 なお、おおなん学は先ず「小・中」の連携構築から着手する形で将来的にはご指摘のように高校も、そして大学も含めての連携が必要と認識しています。また保育所等幼児期からの視点も大切であると考えています。
4 6	P18～	地域コミュニティ育成について 地域マネージャーの配置・育成について認定を受けている地域に限定せず、基本的に全地区配置することと、全域でのレベルアップを考えていく。 全町における「一体感の醸成」をより一層推進することが重要。順次拡大についても検討してもらいたい。	現在の仕組みは、地域運営組織の認定を受けた地区が地域マネージャーを配置できるというものです。 ご指摘の件については受け止めさせていただきます。

47		<p>住民会議について</p> <p>メンバーは無作為選出とあるが、限られた人員の視点ではなく、最大限に幅広く対応し、各界・各層から意見を聞く手法を取り入れることが大切と考えています。</p>	<p>住民会議の他にも、従来の方法として計画策定等における審議会委員を、各種団体からの推薦や公募での委員の任命を行うとともに、事業実施等における関係者等への聞き取りや全町的なアンケート調査等による意見聴取・意向把握は適宜実施いたしました。住民会議の案内手法は無作為選出としていますが、この手法の良い点は、「委員の公募等には参画しないが無作為で選ばれたから行ってみよう」というこれまで町政に参画する機会がなかった方々も参画していただける間口を広げる効果があることが確認できています。</p> <p>ご指摘のとおり、幅広く聞くための手法の一つとして、また偏りが無い選出方法として位置づけています。</p>
48		<p>おおなん活力インデックス (ODI) について</p> <p>町民目線で評価する手法を導入とある。より多くの町民が参画できるように創意工夫して取り組むよう智恵を絞って誰もが「自分の事として」考えられるようにシステムを構築することが重要になります。</p>	<p>効果測定、検証は重要性を増してきています。他方、そのための手間や費用がかかりすぎるとは本末転倒となるため、シンプルに、誰もが回答できるように設問等も含めて工夫してまいります。</p> <p>WEB を中心としたおおなん活力インデックス調査は、毎年度全町民が参加可能な評価手法です。広く参加いただけるように周知に取り組めます。また、検証結果が多くの町民と共有できることについても重視して進めてまいります。</p>
49	P24	<p>学校のあり方の研究・実現について</p> <p>矢上高校の魅力化推進について、高校ではコンソーシアムで検討を深めておられると思うが、申し訳ありませんがその活動が世間に見えてきていないと思います。もっと深度化させたら良いのではないかと考えています。</p> <p>例えば専門委員会を起こし、そこで智恵を絞る。</p>	<p>ご指摘のとおり、高校魅力化については矢上高校だけでなく、矢上高校と地域の未来をつくる会（コンソーシアム）を中心に取り組みを推進しています。コンソーシアムでは、町内全戸配布するニュースレターの発行や、総合的な探究学習等で地域に生徒を送り出す際の調整等を担っています。</p> <p>ご指摘の点について矢上高校とコンソーシアムと共有し、検討し</p>

		例) 進学に関わる専門委員会、部活動に関わる専門委員会、産業技術科に関わる専門委員会等。	てまいります。 なお、コンソーシアムの体制についても検討してまいります。
50	P30	森林資源の有効活用等について この件について、森林開発、水源環境整備、鳥獣被害防止などを一体的に考えて進める必要があると考えています。	ご意見承りました。 森林開発、水源環境整備、鳥獣被害防止などを一体的に考えて進める視点を各部門と共有いたします。
51		木材利用としてはバイオマスエネルギーとしての利用促進とあります。結構なことと思います。現在、皆井田～円の板ルートの林道開発構想が進んでいます。一層の促進・早期開通に向けた働きかけを期待します。 また伐採後の植林は広葉樹も混ぜて行うことでクマ、イノシシ等の鳥獣害予防にもつながり、人間との住み分けも考えることが大切です。	ご意見承りました。
52		あわせてジビエ料理のできる施設を実現することも必要です。先進地に学びぜひ設置に向けて検討いただきたい。	ジビエ料理については、料理の提供側人材の確保や設備などが新たに必要となることと、ニーズが安定的にあるかという需要と供給両面で検討課題があると考えます。 ご指摘のように先進地等視察・研修を通じて邑南町らしいジビエへの向き合い方について検討してまいります。
53	P55	旗を立てるについて とても良いことだと考えています。それに伴い、キャッチフレーズや目指す方向へのスローガンを決めて取り組む必要があるのではないか。	ご指摘の点について、町としての大きな方向性を示すキャッチフレーズが「地域とつながり、挑戦を育む町」となります。 より具体的な施策等におけるキャッチフレーズ、スローガンはそれぞれの施策の中で、「地域とつながり、挑戦を育む町」とつながる形で検討いただくことになると考えます。

5 4		<p>町民本位で評価し、庁内で共有とあるが、実現のためにはまずすべての町職員が「住民ファースト」の姿勢に意識改革、発想の転換をすることが急務ではないか。</p> <p>一部の部署、一部の職員だけでなく、全職員において温度差なく、質を上げることが前提になると考える。</p> <p>職場風土の改善、〇〇的な職場文化の構築が同時進行で求められます。</p> <p>お互いに努力致しましょう。</p>	<p>ご意見承りました。</p> <p>職員誰もが町民に信頼され、ともに邑南町を良くする一員として町民皆さんとともに励みたいと思います。激励ありがとうございました。</p>
5 5	豊かな自然、資源がある	<p>景観については 自然景観 しか記述がないが、この地域の特色である 赤瓦と漆喰の白壁の景観について評価し保全することをどこかで記載する必要がある</p>	<p>邑南町の赤瓦と漆喰の白壁の景観について邑南町の景観の特徴のひとつであると考えています。</p> <p>赤瓦（石州瓦）の景観は、里山の産業、暮らしや文化と密接につながって残ってきたものと考え、邑南町らしい農村の景観や文化を保全するという観点で取り組みを検討します。</p>
5 6	PI7 生物の多様性と41ページ 被害防止と鳥獣に強い地域づくり	<p>鳥獣害からの被害防止対策として 森林の伐採後、動物が住む場所を確保するための植栽が必要。</p>	<p>ご意見承りました。</p> <p>森林開発、水源環境整備、鳥獣被害防止などを一体的に考えて進める視点を各部門と共有いたします。</p>

	について		
57	P34 自慢できる自然景観がある	四季よって 森林の色が変化するような森づくりをするために、伐採後の植栽方法について検討し景観を形成すべきだ	上記 56のとおり
58	P12.13 暮らしを守る	石見地域の特色である赤瓦と白壁の家の景観を保全することが大切。特に迷走する公共建築物の指針となるよう ここにはっきりと記述しておくべきだ	上記 55のとおり。
59	P48	地域共生社会の実現と言う文言があると良いのではないか。内容としては、その点を書いているが、文言として地域共生社会と言う文言がある方が良い。	記載内容にて「地域共生社会」について示しています。誰にでもわかりやすい言葉でお示ししています。
60	P43	効率的な地籍調査とありますが、現状の進捗が1%で、目標値も1%ということは、効率的とは言えないのではないのでしょうか？リモートセンシング等・調査の高度化による地形データの収集となると、ドローンなどを使った3Dキャプチャーを想像しますが、かなり費用もかかると思われます。どの程度の予算で、どの程度進捗を進めていく予定か気になりました。	目標としては着実に現状の進捗率を維持することとして掲げました。他方、より効率的な方法としてのリモートセンシング等高度化を検討推進し、より早期に地籍調査完了を目指します。調査に必要な地形データについては、すでに整備されているものを活用する方針です。従いましてデータ収集費用については、最小限に抑えられる見込みです。ただし、技術進歩、その他要因によって変動が大きいと予測されますので、調査方法の検討と合わせて精査してまいります。
61	P15、22（おおなん	現状の「失敗が恥ずかしい／間違いをおそれて挑戦できない／ひとりでは新しいことに取り組めない」は非常によく理解ができます。その解消のための施策である「おおなん学」について言及していま	ご意見承りました。 地域とつながり、挑戦を育む町という理念を掲げるこれからの町のあり方として、失敗経験を共有し褒め称えるという取り組みな

	学について)	<p>すが、私が把握している「おおなん学」は、いわゆる地域の歴史や文化、自然、施策などを地域の人たちから教えてもらい、何かしらの提言や行動を行うというようなイメージです。そこでは大人の生き方に触れるというよりは、大人とは間接的に関わる程度なイメージがあります（もちろん、そのプロセスの中で顔なじみとなり、自然と話す間柄になるなどの副次的な効果は見込めますが）。「おおなん学」には多面的な側面がありますが、おおなん学という一つのコンテンツ（もちろんその他の施策とミックスしますが）だけではなく、学校文化や地域の大人たちが挑戦する（失敗を褒めたたえる）ということも大事なかなと思います。例えば、フィンランドには、10月13日に失敗の日という行事があり、国内でも隠岐島前高校や岡山の勝山高校蒜山校地、高梁城南高校でも「失敗の日」という失敗を語り合う行事を行うなどの取り組みがあります。おおなん学やその他の取り組み（ロールモデルマッチング）だけに背負わせず、町や学校文化として作っていくというのも大事なかなと思います。</p>	<p>どを関係各課と共有し、検討してまいります。</p>
62	P46 女性活躍について	<p>地域の中で女性が活躍することについて、15%の現状ということですが、その内実は、各自治体での「女性部」ではないかと推察します。これは女性の参加のハードルを下げる効果がありそうですが、この名称だと「女性は女性部、それ以外は…」と、周縁化させているのではないかと…と思います。特に若い方は特にジェンダーに関して敏感に反応する方もいると思います。極端な話、名称を変えてもいいのではないかと考えました。</p>	<p>いただいた指摘について、地域の中での女性の活躍は女性部のみを指しているわけではありません。WEBアンケートの結果、「地域で女性が活躍しやすい雰囲気があると思われる」方が15%という結果でした。自治会女性部についていえば、自治会の女性部の成り立ちや活動状況などそれぞれの団体の中で状況の違いはあろうかと思いますが、ご指摘の点は重要な視点であると思います。女性部の名称や活動内容が、今の皆さんの暮らしや思いに沿ったものになるように、ひとり一人が声をあげ、変化に立ち向かえるように邑南町としても挑戦を応援できればと考えています。</p>

63	P9 KGI について	<p>KGIとして、「総人口 8,000 人の維持」と「幸福度 100%」が並記されていますが、もし人口が目標を下回っても住民の幸福度が高い状態が維持されている場合、この計画は成功とみなされるのでしょうか。成行きの場合と KGI に掲げている人数には 500 名ほどの差があります。「移住施策」という直接的な人口対策に注力するのか、それとも「住民の幸福の最大化」を最上位の戦略に据え、その副産物として人口減少が緩和されるという時間軸で考えているのか、どちらのスタンスでしょうか。</p> <p>このページに関係するかわかりませんが、人口についての言及なので、追加で質問をさせていただきます。若者や女性の定着において、「地方創生のファクターX」という論文には「人間関係の閉塞感」が若者等の離脱の大きな要因であると述べてありました。「つながり」はえてして「しがらみ」であると言及されていますが、「つながり」の強さだけでなく、「寛容さ、風通しの良さ（これがファクターX）」を測定する指標を設ける予定はあるのでしょうか。該当する項目があれば教えてください。</p>	<p>KGIとしては3つの目標値は並列ですが、それぞれ相関関係にあると考えます。</p> <p>住民の幸福度が高ければ、移住・定住につながり、15歳未満人口の維持にも効果があると考えます。</p> <p>とはいえ、あえて言うならば 町民の皆さんが「邑南町で暮らして良かった。住み続けたい。自分は幸せだ。」とだけ思っていたような邑南町に、行政と住民そして地域が一緒に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>一方で、人口減少の推移でお示ししたとおり、目標推移で移行しても、減少を抑制は出来ても止めることができるわけではありません。さらに10年後の2045年には約7,000人の人口を想定しています。人口が減少することで町の経済循環が縮小することが心配されます。住み心地の良い町にするためにも経済規模の維持という点で人口は出来るだけ維持していきたいと考えています。</p> <p>また、風通しの良さを図る指標については、直接的な風通しの良さを測るものではありませんが、当該ページの「若者・女性が活躍しやすい雰囲気がある」の項目がそれに準じる指標であると捉えています。</p>
----	-------------------	--	---

町内に住所を有する者 15人